

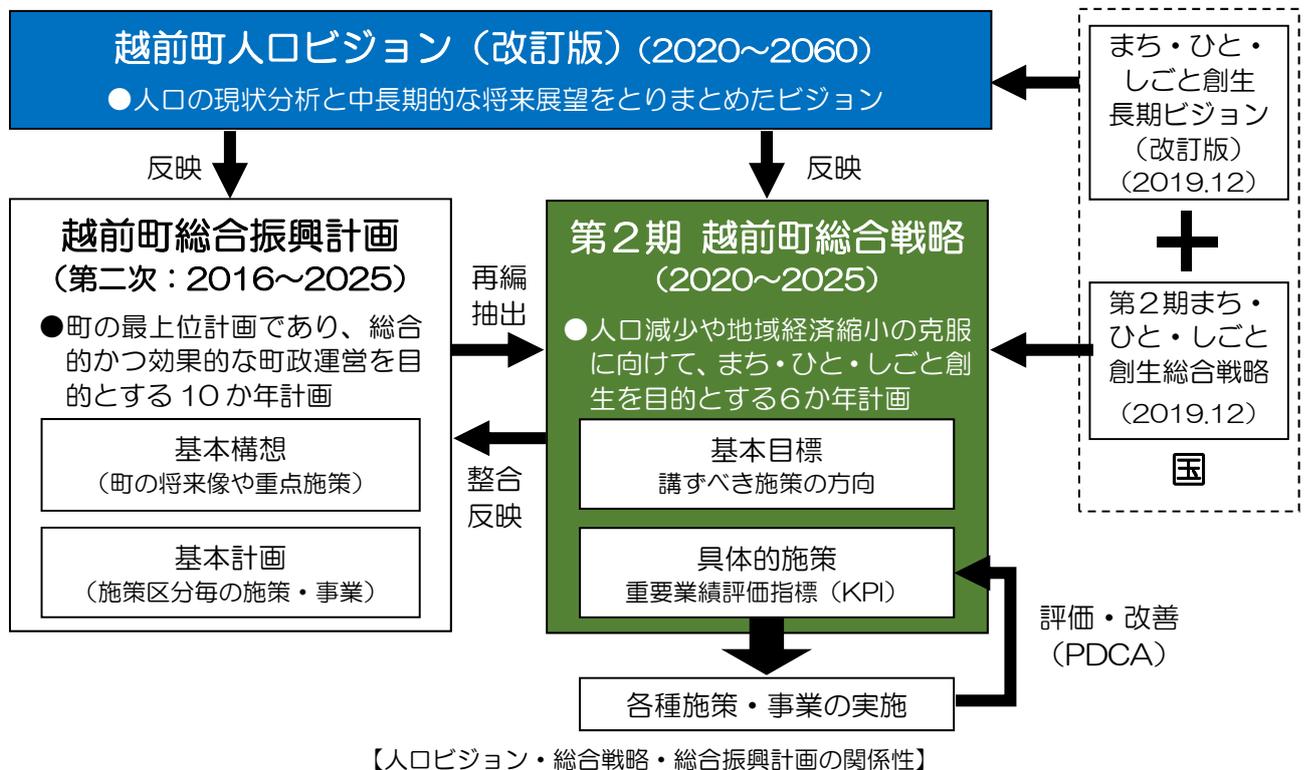
越前町 人口ビジョン（改訂版）・第2期総合戦略

【概要版】

◇背景・目的

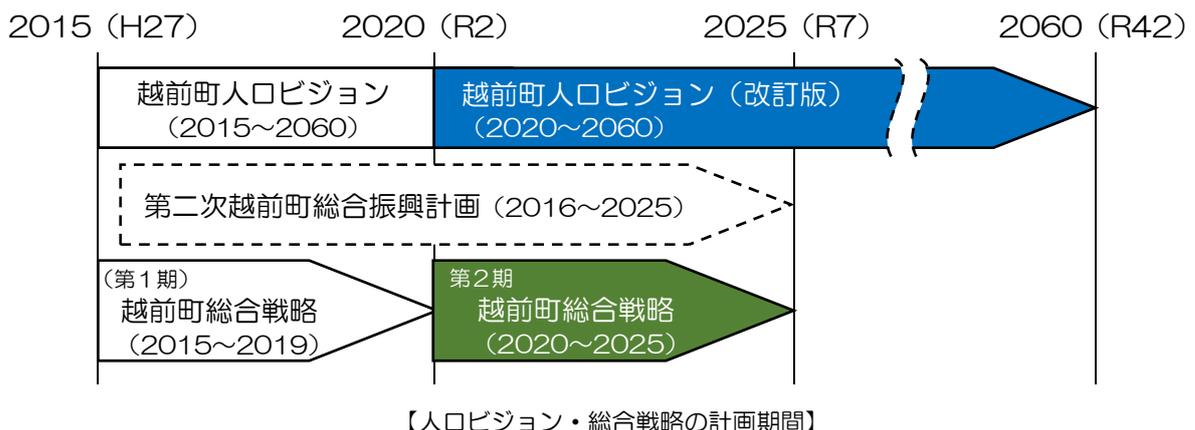
国では、2019（令和元）年12月に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（令和元年改訂版）及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しています。

これを踏まえ、本町では、2015（平成27）年10月に策定した「越前町人口ビジョン」を改訂するとともに、その実現に向け第2期「越前町総合戦略」を策定することで、基本目標と講ずべき施策の方向、具体的施策と重要業績評価指標をとりまとめています。



◇計画期間

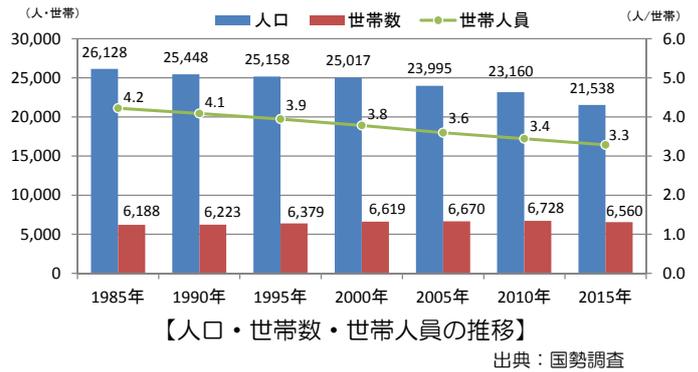
越前町人口ビジョンの計画期間は、2020（令和2）年度～2060（令和42）年度、越前町総合戦略の計画期間は、2020（令和2）年度～2025（令和7）年度とします。



◇人口動向

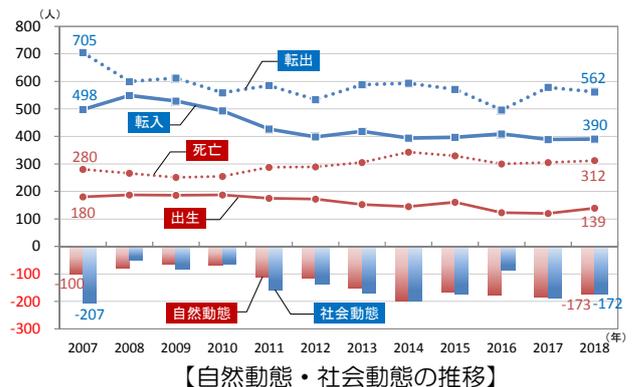
＜人口減少が進行、世帯数も減少＞

- 本町では、全国的な傾向よりも早い段階から人口減少が進んでいます。
- 世帯数は増加傾向にあったものの、2010年をピークに減少に転じました。



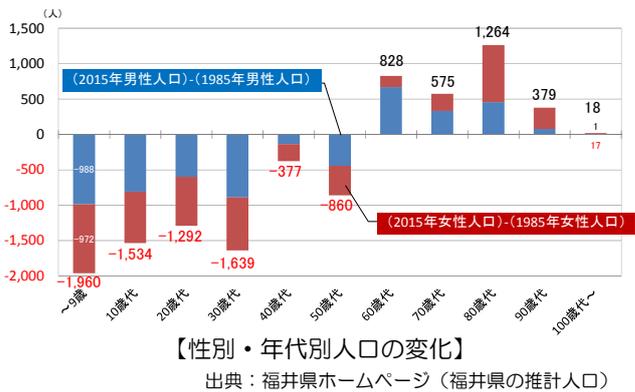
＜死亡者数が出生数を大幅に上回る＞

- 出生数は100人台、死亡者数は概ね300人台で推移し、毎年200人近い自然減少が続いています。



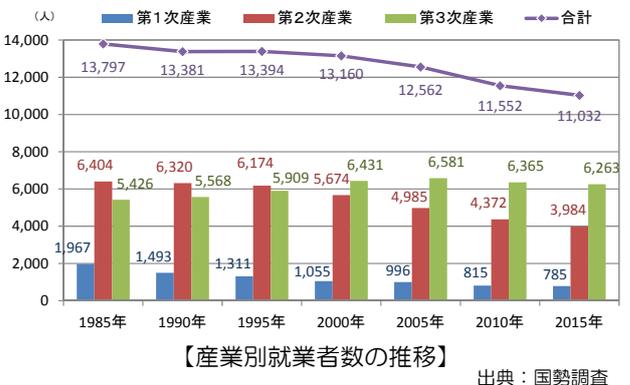
＜町外への転出超過により社会減少が進行＞

- 転入者数は減少していますが、転出者数はほぼ横ばいで、すべての年で転出者数が転入者数を上回っています。



＜人口減少に伴い就業者数も減少＞

- 人口減少に伴い、就業者数の合計も減少しています。
- 産業別就業人口は、第3次産業がほぼ横ばいで、第1次産業、第2次産業は大きく減少しています。



- 出生数の減少と転出超過によって少子高齢化と人口減少が進行することで、町民生活への影響、地域経済への影響が懸念されます。
- 出生率の回復や転出超過の緩和のために今何ができるかを考えると同時に、少子高齢化のもとでも安心して暮らし続けることのできる地域社会を創生していく必要があります。

◇人口減少が将来に与える影響

●地域産業への影響

少子化による年少人口の減少と若年層転出による生産年齢人口の減少は、長期にわたり就業人口の減少をもたらす可能性があります。本町の主力産業である第1次・第2次産業の就業者、とりわけ農林漁業分野や越前焼等の伝統工芸分野の働き手への影響が懸念されます。また、今後さらなる充実を目指す観光分野における就業人口の確保にも影響が出ないとも限りません。

●町民の日常生活への影響

人口減少により限界集落（働き盛りの住民が減り、高齢者が人口の半分以上を占める集落）が増加すると、医療・福祉サービスや日常的な買い物、公共交通等、日々の生活に欠かすことができないサービスの提供が難しくなることや、それらへのアクセスが難しくなる町民が増加することが懸念されます。

高齢化によって医療や介護・福祉の需要が高まることが予想されるなか、それらのサービスを提供する側の若年人口の減少は、誰もが安心して暮らすための生活基盤を脅かすことになりかねません。また、地域のスーパーやコンビニ等の生活利便施設の維持・存続も重要な地域課題です。

●町内公共施設の維持管理への影響

人口減少により公共施設の需要も減少することから、地域内の主要な公共施設のなかには統廃合や開設の頻度等を縮小することにより、現行のサービスのあり方を見直す必要に迫られる可能性もあります。

道路、河川、海岸、公園、上下水道等のインフラや、自然環境の維持管理に関しても、今後の町財政の状況や建設従事者の動向次第では、本町が誇る“住みやすさ”の低下につながることも限りません。



持続可能な地域社会を創造するために

少子高齢化社会とは、若者一人ひとりが余すところなく地域社会で活躍することができる社会であり、シニア層が健康で生きがいを持って生活することが地域社会全体の幸福に直結する社会でもあります。多子世帯の減少と長寿化に起因する人口減少は、今後しばらくの間継続することが見込まれます。

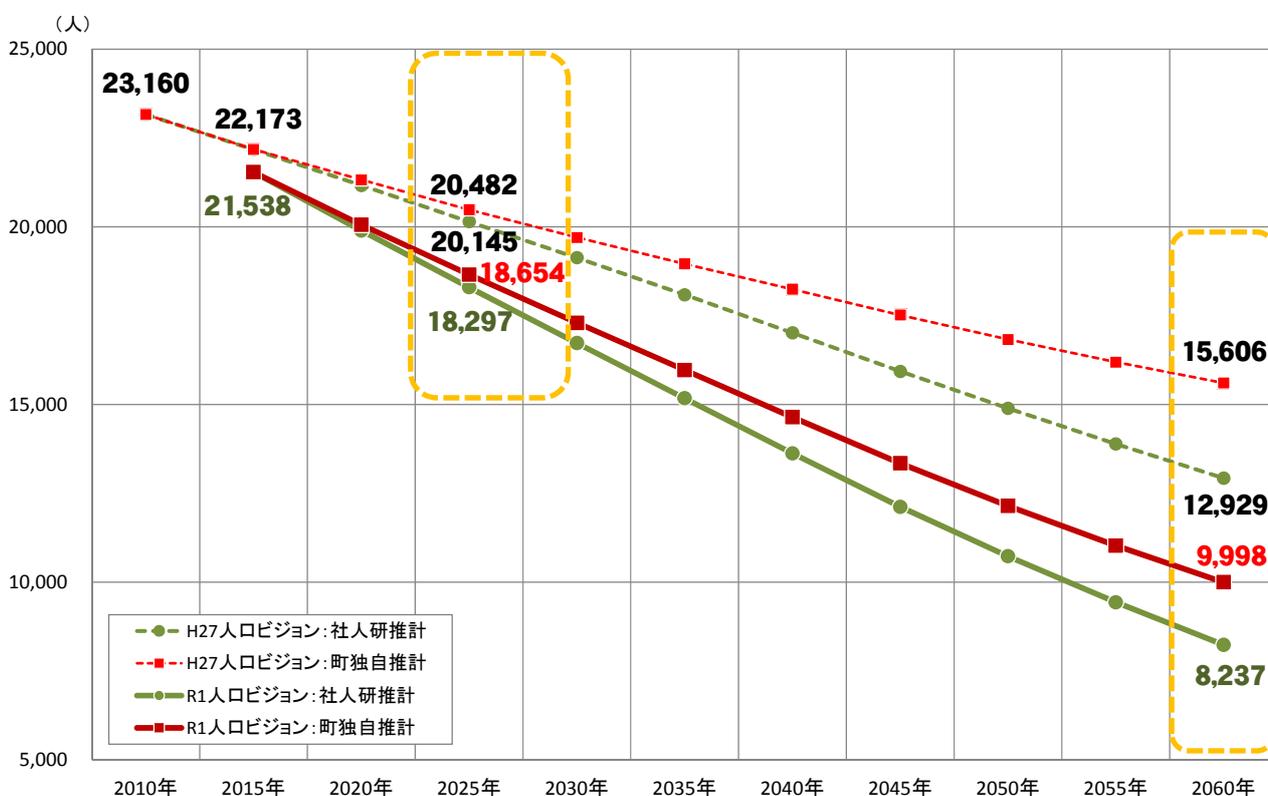
低すぎる出生率の一定水準までの回復と若者の転出超過の緩和は地域の重要課題ですが、他方で、人口動態に柔軟に対応できる持続可能な地域社会を創造していくことも同様に重要です。

今日の人口減少は、発想の転換の必要性を私たちに示唆しているように思われます。

◇将来目標人口

<出生数や転入数の増加により人口減少を抑制>

本町の将来目標人口は、不可避である人口減少傾向を受け止めながらも、出生数や転入数の増加に寄与する施策・事業を推進することで人口減少を抑制し、2025（令和7）年で19,000人、2060（令和42）年で10,000人の人口維持を目標とします。



【社人研推計と越前町独自推計の比較グラフ】

※将来推計人口の仮定値

- 社人研推計：「国立社会保障・人口問題研究所」が推計した人口
- 町独自推計：社人研推計を用いて、合計特殊出生率の向上（2040年に2.07（人口置換水準）まで上昇）に加え、町独自の仮定（「20代夫婦+子ども1人の世帯」と「30代夫婦+子ども1人の世帯」が、それぞれ年間3組ずつ本町へ転入）を追加して推計した人口

◇まちづくりに対する町民意識調査結果

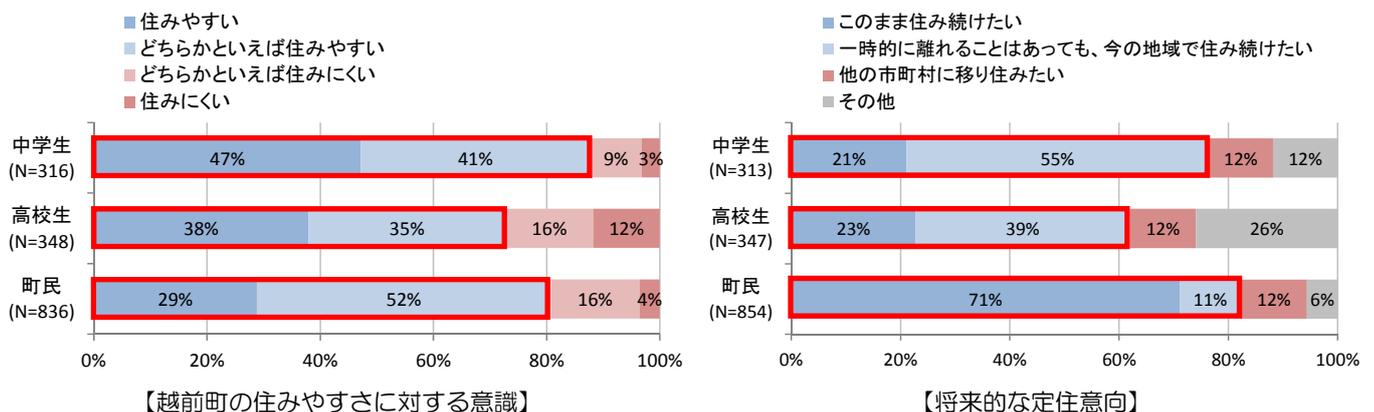
第2期総合戦略の策定に向けて、町民や中高生を対象に、まちづくりに対するアンケート調査を行いました。

	町民	高校生	中学生
調査対象	満20歳以上の町民 2,500名	丹生高校の1～3年生	朝日中、宮崎中、越前中、織田中の2～3年生
回収数	872名（回収率：34.9%）	363名	317名
調査方法	郵送（無記名回収）方式	学校における直接配布回収方式	
調査期間	2019年8月26日～9月9日	2019年9月	

※下図の「N」はアンケートの有効回答数

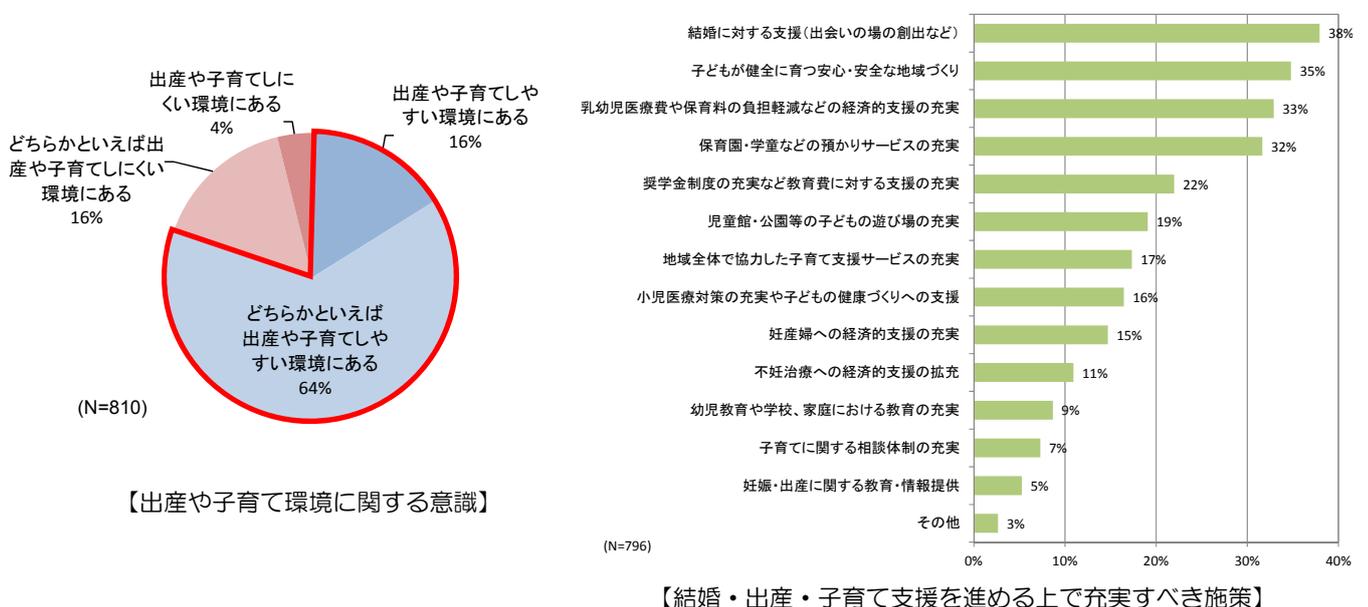
<越前町に住むことについて>

- 「住みやすい・住み続けたい町」という意識の町民が多いですが、高校生は中学生に比べて評価が低くなっています。
- 越前町に定住することの魅力として、「自然環境が良い」「静かで暮らしやすい」が多く挙げられました。



<結婚・出産・子育てについて>

- 出産や子育てをしやすいと評価している町民が多いですが、結婚に対する支援をはじめ、結婚・出産・子育てに関する切れ目のない支援が求められています。



◇総合戦略の基本目標・重点施策・数値目標

【基本目標1：仕事・雇用】 観光立町の実現により安定した雇用を創出する

「観光立町」の実現による地域資源を活かした「ふるさと越前町」創生戦略

- ・本町の自然環境や農林水産業（越前がに・越前水仙・越前がれい）、歴史文化を活かした伝統産業（越前焼）、越前温泉などの多彩な地域資源を活かした「観光立町」を実現し、観光を盛り上げることで地域の新たな雇用創出を図ります。
- ・地域産業の担い手となる人材の掘り起こしや育成を推進するとともに、女性、高齢者、障がい者、外国人など、誰もが活躍できる地域社会を創出します。

(1) 重点施策

観光立町を目指した産業振興と観光産業の育成

- 越前がに、越前水仙をはじめとした農林水産業の担い手育成と雇用の創出
- 越前焼などの伝統工芸職人の育成と魅力の発信 …など



【越前がに】

(2) 数値目標

目標指標	基準値 (2018(H30)年度)	→	目標値 (2025(R7)年度)
越前水仙の出荷額	2,500 万円/年	→	4,300 万円/年
漁業生産額	2,530 百万円/年	→	2,656 百万円/年
越前焼生産額	150 百万円/年	→	200 百万円/年

【基本目標2：観光・交流】 新しいひとの流れをつくる

定住人口の確保・交流人口の創出による「ふるさと越前町」創生戦略

- ・本町が誇る、自然や歴史・伝統、文化などの魅力を磨き、大都市圏からの定住人口・観光等による交流人口の流れを創り、「しごと」や「まち」との好循環を図ります。
- ・将来的な地方移住にもつながる「関係人口」の創出、拡大を図ります。

(1) 重点施策

観光振興による交流人口の拡大

- 地域の魅力創出や新たな誘客戦略の展開
- 移住者支援の充実



【O・TA・I・KO 響 2019】

新たな地域公共交通の仕組みづくり

- コミュニティバス「フレンドリー号」、福鉄バス、京福バスの新たな公共交通の仕組みづくり …など



【コミュニティバス「フレンドリー号」】

(2) 数値目標

目標指標	基準値 (2018(H30)年度)	→	目標値 (2025(R7)年度)
観光入込客数	224.8 万人/年	→	300 万人/年
コミュニティバス1便あたりの利用者数 (デマンド)	1.7 人/便・年	→	3.5 人/便・年
学生等U・I・Jターン数	6 人/年	→	12 人/年
転出者数 - 転入者数 (1~12月)	172 人/年	→	100 人/年

【基本目標3：結婚・出産・子育て】若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

結婚・出産・子育ての総合的な施策展開による「ふるさと越前町」創生戦略

- ・本町の将来を担う若い世代やその子どもたちを育むため、結婚・妊娠・出産・育児をしやすい環境を創出します。
- ・子どもたちが地域の中でしっかりと育つよう、良質な教育環境づくりに取り組みます。

(1) 重点施策

結婚から育児まで切れ目のない支援の充実

- 妊娠・出産・子育ての相談支援の充実
- 住民に開けた子育て世代包括支援センター事業の推進
- 地場産食材使用、食育の推進 …など



【助産師とママたちの座談会】

(2) 数値目標

目標指標	基準値 (2018(H30)年度)	→	目標値 (2025(R7)年度)
出生数 (1~12月)	139人/年	→	130人/年
結婚祝品事業件数	28件/年	→	32件/年

【基本目標4：安全・安心】時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

安全・安心な生活環境の充実による「ふるさと越前町」創生戦略

- ・本町の「しごと」と「ひと」の好循環を支える安全・安心な「まち」づくりを進めます。
- ・生活環境の充実にあたっては、SDGs（持続可能な開発目標）の視点を踏まえ、持続可能な共生社会を目指すとともに、地域社会や産業、医療、教育などの様々な分野において技術革新の成果を取り入れます。

(1) 重点施策

災害に対する備えの充実

- 河川改修や急傾斜地崩壊対策、道路防災等の促進
- 自主防災組織の育成支援
- ハザードマップの周知・活用 …など



【避難所開設訓練】

(2) 数値目標

目標指標	基準値 (2018(H30)年度)	→	目標値 (2025(R7)年度)
自主防災組織数 (累積)	62 団体	→	120 団体
防災士数 (累積)	98 人	→	160 人

◇基本目標とSDGsとの対応

総合戦略の推進にあたっては、SDGsの理念に沿って、町民や地域団体、NPO、企業などの多様な主体と連携・分担を行い、社会・経済・環境に関わる様々な課題を、総合的な視点をもって解決します。基本目標とSDGsとの対応については下表のとおりです。



【国連SDGs カラーホイール】

【SDGs（17の目標）の視点に基づく第2期総合戦略の施策体系】

基本目標	SDGs（17の目標）																
	1 貧困	2 飢餓・食料	3 健康・福祉	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 成長・雇用	9 イノベーション	10 不平等	11 まちづくり	12 生産・消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和と公正	17 パートナーシップ
1 仕事・雇用		●		●	●			●	●			●			●		●
2 観光・交流			●	●			●	●	●	●	●	●					
3 結婚・出産・子育て	●	●	●	●	●			●		●	●	●		●	●	●	●
4 安全・安心	●		●			●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●

＜参考＞SDGs（持続可能な開発目標）とは

- ・2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。
- ・17のゴール、169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 貧困をなくそう | 10. 人や国の不平等をなくそう |
| 2. 飢餓をゼロに | 11. 住み続けられるまちづくりを |
| 3. すべての人に健康と福祉を | 12. つくる責任 つかう責任 |
| 4. 質の高い教育をみんなに | 13. 気候変動に具体的な対策を |
| 5. ジェンダー平等を実現しよう | 14. 海の豊かさを守ろう |
| 6. 安全な水とトイレを世界中に | 15. 陸の豊かさを守ろう |
| 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに | 16. 平和と公正をすべての人に |
| 8. 働きがいも経済成長も | 17. パートナーシップで目標を達成しよう |
| 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう | |

越前町人口ビジョン（改訂版） 第2期総合戦略【概要版】



発行年月：令和2年3月
 発行：越前町
 編集：地域創生室

〒916-0192 丹生郡越前町西田中 13-5-1
 TEL：0778-34-8714 FAX：0778-34-1236
 MAIL：sousei@town.echizen.lg.jp